

+++ 相談し、相談される関係 +++

2020年8月3日

西久保保育園さんは東京武蔵野市に園を構え、67年。現在113名（ゼロオから就学前）のお子様が在園されています。

西巻園長と若者（2人）のインタビューを通して感じたのは、相談し、相談される関係のたいせつさ。一般的に「助けてください」と助けを求めるのって、なかなか難しいもの。

このひと声を出せるか、出してもらえる関係が積み重なっているか。そんな関係づくりについて、普段の言葉で西久保保育園のみなさまからお気持ちを解いていただきました。

また、西久保保育園さんには地域との関係性（たとえば、ひろく地域のお子さんに対して育児の情報サポートや一時保育事業）についても紹介いただきました。卒園生とも関係が続いているなど素晴らしいです。

そして若者から出た言葉で2つが印象的でした。

・コミュニケーションの悩みについて。

この園にいる子どもたちだって日々コミュニケーションの悩みを抱えている。それを働く自分の立場に置き換えると"同じじゃん!"って。だから、コミュニケーションって（上でもなく、下でもなく）"横" なんだなって気がついた。

一緒に働く仲間と相談し、相談される関係でありたい

・この園に職場体験を申し込むときは、泣きたくなくなるような覚悟が必要だった。それまで歩んできた節目で、「後がない、後がない」という心理が働いていたから。その経験があるから、相談することについて考えるようになったと思う。

このオンライン見学会「ハフハフ」のコンセプトは、一歩でもなく、半歩ずつ若者と会社がはたらき方を考えるキッカケとなれることにあります。

社会では ゼロかイチ の考え方が軸になる局面もあると思います。

しかし、今回のインタビューから垣間見えるように、ゼロからイチまでにはいくつも数値（可能性）があり、0.5 でも、ときには 0.25 に戻ってもよいのではないか。そう感じさせてくれた見学会でした。

そして、オンラインで参加をいただいた支援団体のみなさまからも気づきや学びをいただけるコメントや質疑応答を重ねることもできました。改めてお礼申し上げます。